



洋上アルプス

No.259 平成28年10月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式のダウンロードはこちらにあります

http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



大学生が林野行政を体験

(9月26日～9月30日)



樹木の説明を受ける武山さん

平成28年度（夏季）農林水産省就業体験実習（インターンシップ）を、9月26日から30日までの日程で実施しました。

今回は、岩手大学3年生の武山泰之さんが、当センターで行っている現場業務を中心としたカリキュラムを体験しました。

実習の主な内容は、屋久島における外来種対策、森林植生観察実習、自然休養林・レクリエーションの森見学、世界自然遺産地域の保全対策（縄文杉現地実習）、生態系保全対策（シカ対策関係業務、気象観測データ収集）、入林申請等内

務業務を実施しました。

武山さんは大学卒業後の進路等を考え各カリキュラムを担当した職員へ実習が終了するぎりぎりの時間まで熱心に質問する姿は、今回の実習に望む熱意を感じさせるものでした。

最後に、屋久島の森林で起こっている問題や、それに対する当センターの取り組みに関する講話が、今後の大学での学びや社会に出たときの問題解決の参考となったと感想を述べてくれました。



縄文杉の定点カメラを点検中

屋久杉土埋木！ 安房貯木土場で盛大に競争入札開催

(9月13日)

当初、8月24日予定の土埋木公売は台風11号の影響により延期され、9月13日に実施されました。

当日の公売会場は、あいにくの雨模様でしたが県内外から屋久杉業者など総勢約50人が参加し賑わいをみせていました。

また、MBCテレビも取材に訪れ、活気ある競り状況取材していました。

公売では40物件（約45㎡）が競売に賭けられ、お目当ての土埋木には多くの札が入るなど活発な競市となりました。

なお、1本当たりの最高額は約198万円と高値で売買されるなど、当日出品された屋久杉土埋木は完売しました。



賑わう貯木土場の様子

白谷雲水峡3団体共同で清掃ボランティア実施 (9月10日)

㈱伊藤園7名、公益財団法人屋久島環境文化財団13名(財団ボランティア8名を含む)、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会3名の総勢23名による歩道清掃のボランティア活動が行われました。

当日は、晴れで23℃と比較的過ごしやすい気候の中、白谷雲水峡の入口からサツキ吊橋に繋がる川沿いの木道(雲水歩道)間の手摺りの苔落としを行いました。作業はスムーズに進み無事終了しました。清掃後の手摺りは見違えるほどきれいになりました。ありがとうございました。



手摺りを清掃する皆さんと見違えるほどきれいになった手摺り



記念碑を囲むボランティアの皆さん

夏休み 縄文杉登山者数 (平成25年～28年)

平成28年度 夏休み期間中(8/11～8/14)の縄文杉登山者数は、前年度 同期間中の合計数に比べ、約440人減となりました。日付ごとに見ても、夏休み期間中の登山者数は、過去4年間は全体的に減少傾向にあります。

縄文杉登山者数集計

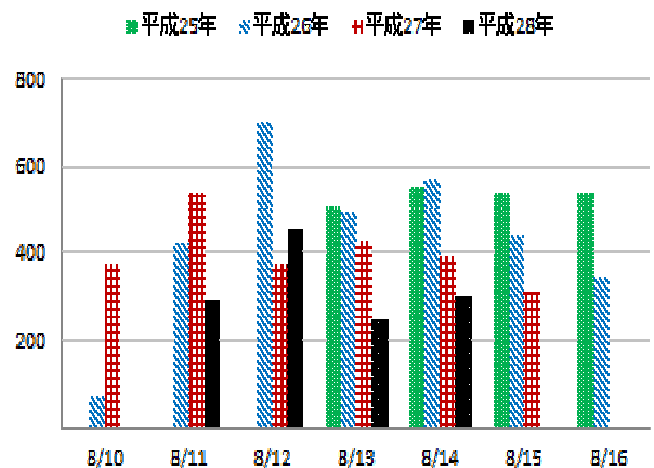
西暦	2013年	2014年	2015年	2016年	参考
月日	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	前年比
8/10		71	373		
8/11		425	542	292	-46%
8/12		705	375	455	+21%
8/13	511	494	428	248	-42%
8/14	556	573	391	302	-23%
8/15	543	440	311		
8/16	541	346			
合計	2,151	3,054	2,420	1,297	
日平均	538	436	403	324	

*参照：屋久島山岳利用対策協議会による調査記録

* : 日曜、もしくは祝日を表す

*斜線部分の記録はなし

縄文杉登山者数



屋久島の森林研究 (第2回)

—照葉樹林の動態 (その2、台風の影響)—

相場 慎一郎 (鹿児島大学大学院 理工学研究科地球環境科学専攻 多様性生物学講座 准教授)

1回きりの調査ではわかりませんが、同じ場所を繰り返し調査することで、森林がダイナミックに動いていることがわかります。図には屋久島の南西部、瀬切川右岸の標高約500mの照葉樹林を1983年以来5年おきに継続調査した結果が示されています。計4400㎡の調査区内に出現した直径2cm以上の木の種類ごとの本数です。バリバリノキ・イスノキ・ヒサカキ・タイミンタチバナ・サザンカなどが多い森ですが、1993年から1998年にかけて大きく変化しています。まず、1998年以降にバリバリノキの本数が増加し、それまで成木が1本しかなかったアブラギリが直径2cm以上に多数成長してきました。逆に、1993年から2003年にかけてナギの本数が大きく減少しています。以上の変化は同調して起きているように見えますが、バリバリノキ・アブラギリの増加とナギの減少とは、その理由は異なります。

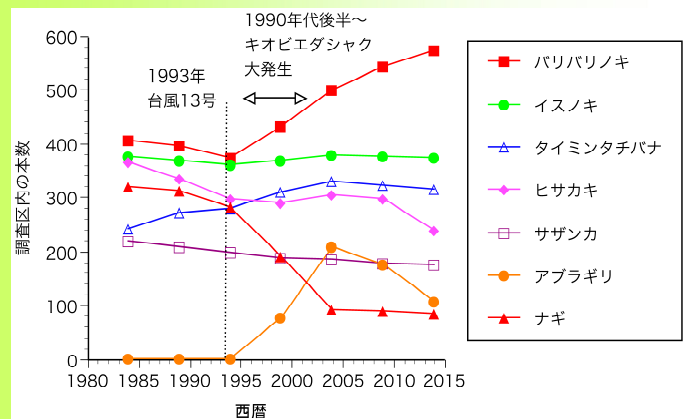


図: 瀬切川照葉樹林調査区における主要樹種の本数の変化

まず、バリバリノキ・アブラギリの増加については、その原因は1993年9月3日に屋久島に接近した台風13号です。屋久島測候所では最大瞬間風速55.4m/sが記録されました。この台風は強風により屋久島西部の森林に大きな影響を与え、多数の倒木を発生させ、枝葉を吹き飛ばしました。特に、風当たりの強かった尾根で被害が顕著で、その部分が白っぽく見えていました(写真)。倒木により森林に空き地(ギャップ)ができたり、枝葉の減少により林内が明るくなりました。このため、明るい場所を好むバリバリノキの幼樹やアブラギリが旺盛に成長して、1998年以降この2種の本数が大きく増加することになったのです。ただし、アブラギリの本数は2008年以降、減少に転じています。森林が台風被害から回復し、林内が暗くなってきたためです。屋久島ではアブラギリを外来種として危険視する考えもありますが、台風などの攪乱によって原生林内に侵入したアブラギリは、森林が回復するにつれ自然に排除されていくため、放置していても森林に大きな

屋久島の植物



ヤクシマウメバチソウ (ニシキギ(ユキノキシタ)科)

ウメバチソウは山地の湿地に生える多年草で、北半球の温帯から寒帯に分布する。屋久島の花之江河や宮之浦岳付近のもののは小型で丈も低い。初秋から秋に白い5弁の花をつける。和名は花の形が梅鉢紋(菅原道真を祀った天満宮や加賀前田家の家紋)に似ることから。

影響はないと思われます。

一方、ナギの減少の原因は台風ではなく、ナギを食害する蛾キオビエダシャク幼虫の大発生と考えられます。

(つづく)

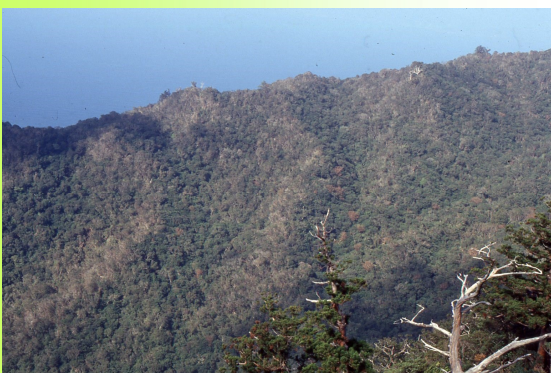


写真: 1993年9月台風13号通過直後の瀬切川照葉樹林



屋久島西部等の植生垂直分布調査（平成26年度）

●標高 200 ～ 400 ㍓プロット（照葉樹二次林）

200 ㍓プロットは山腹下部の平衡斜面。樹木の成長のよい照葉樹林で、付近にはマテバシイやウバメガシの大径木や株立木などが見られ、戦前は薪炭利用されていた林分と考えられる。ヤクシカやヤクザルの生息数が多く、ヤクシカの採食圧によって下層植生が単純化している。400 ㍓プロットは山腹中部の平衡急斜面。付近にはウバメガシやヤクタネゴヨウの大径木が生育。プロットはやせ尾根ではないのでヤクタネゴヨウの生育は見られない。イスノキやマテバシイ、スダジイの生育は旺盛。

[現況]

- ① 潜在的にはスダジイやウラジロガシが優占する照葉樹林であるが、先駆的性格の強いマテバシイ、イヌガシ、バリバリノキなどが高木層を占める照葉樹二次林である。
- ② 所々に、薪炭用の親木として保全されていたウバメガシやスダジイ、ウラジロガシの大径木が存在する。
- ③ 標高 350 ㍓前後から、乾燥しやすいやせ尾根上に胸高直径 50 ㍓以上のヤクタネゴヨウ大径木が群状に点在。
- ④ ヤクシカの採食により、低木・草本層の樹木の稚樹（特にボチョウジやタブノキ等）の減少が顕著である。
- ⑤ 特徴的な樹種（標徴種）は、亜熱帯性のフカノキ、ボチョウジ、アデクと、オニクロキである。

[5年前との比較]

- ① 林分構造(階層構造)が変わる程の変動ではないが、高木層の樹冠のうっ閉に伴い、亜高木・低木層に被圧枯死木が見られる。
- ② シカ摂食により低木・草本層の変動が著しい。特に、ヤクシカの嗜好性の高い種は減少し、低い種が増加しつつあった。下層植生(草本層)のボチョウジやタブノキ等の稚樹が消滅しかかっていた。また、スダジイ、ウラジロガシ、ウバメガシ、マテバシイ等高木性樹種の萌芽枝のほとんどが採食を受けていた。
- ③ 標高200㍓プロット内で確認された外来種のアブラギリが、西部林道沿いのギャップを中心に前回よりも侵入しつつある。



写真：標高200㍓プロットの森林概況



巨樹・著名木 屋久杉

七本杉

七本杉は、まっすぐな見事な杉で、強風で損なわれた主幹の上端をおぎなうように、上部に5本の枝が立ち上がって樹幹を形成しています。しかし、7本杉には残り2本の枝が不足しています。1本は枯れ1本は途中からの分岐枝だと推測されます。残念ながら一般の人が数えるとなぜか5本しかありません。

七本杉にはナナカマド、ヤマグルマ、サクラツツジ、ヒカゲツツジ、アセビ、サカキ、アクシバモドキ、ハイノキ等が着生しています。



- 樹高：18.0㍓
- 胸高周囲：8.3㍓
- 樹齢：不明
- 標高：850㍓
- 場所：白谷雲水峡白谷山荘近く

参考文献：屋久杉巨樹・著名木 改訂版(H11.7)